

平成 28 年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	地域資源を授業にいかすためのワークショップ ～2016年は「生活と技術」を考える家庭科～
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 准教授・佐藤ゆかり
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 有限会社 富貴堂 株式会社 オリィ研究所
4 事業の趣旨・目的	<p>今回で第6回迎える本事業のキーワードは「生活」と「技術」であった。第6回は、生活と技術を考える家庭科をテーマに事業を展開した。具体的には、(1) 生活の中の道具について考えるワークショップ、(2) 生活に関わる科学技術の可能性について考える講演会を実施した。(1) では生活の道具を制作し、生活と道具について考えた。(2) ではロボット研究の第一人者による講演会を実施し、ロボットのいる暮らしについて知り、技術と生活のかかわりについて考える機会とした。</p>
5 事業活動報告	<p>(1) 新潟県の伝統的工芸品である燕鋸起銅器の制作体験ワークショップを富貴堂の藤井宏氏、藤井健氏を講師に実施した。実施日時は2017年3月20日(月)9:30～16:30、実施場所は本学自然棟309(家庭科教育学実習)室であった。参加者は小学生を含む10名であった。藤井氏の指導のもと、生活の道具を制作し、その制作過程や道具の特徴などを語りあうことにより、生活と道具について考えるきっかけとなった。</p> <p>(2) ロボット研究の第一人者であり、人と人がつながること、孤独の解消を問いとして研究を進めている、オリィ研究所 吉藤健太郎氏を講師にお迎えし講演会を実施した。実施日時は2017年3月19日(日)10:00～12:00、場所は本学講義棟301室であった。参加者は約50名であり、その9割以上が現職教員であった。2015年10月に国内三店舗目の「ケア LAWSON」が市内において県内初出店となった。その店舗には人間型ロボット pepper がおり(導入され)、高齢者や来店者とコミュニケーションをとっているが、本講演会はロボットのいる暮らしについて知り、技術と生活のかかわりについて考えるきっかけとなった。</p>
6 本事業で得られた成果	<p>2日間の本事業を通じ、生活と伝統的技術、最先端の技術との関わり、人の生活と技術について知り・考えることができた。</p> <p>また、本事業1日目には、多くの特別支援学校教員の参加が得られたことから、今後の地域における小学校、中学校、高校、大学の交流・連携の方法を検討することができた。</p>
7 その他 <small>(成果物等の名称)</small>	特になし

提出期限：平成29年4月14日(金)

3月19日（日）の様子



3月20日（日）の様子

